

## 東北化学同窓会 新任教授寄稿

### 錯体化学研究室

2021年10月に化学専攻錯体化学研究室の教授に着任いたしました坂本良太と申します。錯体化学研究室は山下正廣先生、伊藤翼先生といった、錯体化学に多大なる貢献をされた先生方が主宰された講座であり、その後任を担う重責を大きく感じています。

私は長野県の山形村（松本市の近郊）出身であり、東京で18年間、京都で2年間を過ごした後、仙台へと移り住みました。仙台は気候的には長野に似ており（より暖かいですが）、仙台の冬の寒さは身に堪えるものの、小さい頃を思い出し懐かしく感じています。

私の専門は分子合成化学・錯体化学であり、キャリア初期は機能性小分子の研究を、最近では分子低次元系の研究を行ってきました。両者は別々の研究ということではなく、有機的に協奏しており、例えば発光性ジピリン錯体分子の研究で得られた知見を、光電変換特性を示すジピリンナノシート、励起子伝達能を有するジピリンナノワイヤへと展開しました。

さて、化学専攻の研究室紹介のホームページには、「未来志向の錯体化学」と銘打たせていただいています。化学教室の先生方のご尽力も含め、先人の化学者により化学はこれまでに大きな進歩を遂げ、産業や社会にも多大なる貢献をしてきたことに疑いの余地はありません。一方、この大きな進歩を礎とし、化学は今後、他分野との協働による学際研究・境界領域研究に軸足を移していくことが予想されます。化学教室においても伝統と歴史を尊重するのに加え、科学・産業・社会が必要とする知識・技術を産み出す努力が必要になると考えています。私も微力ながら、光触媒・電極触媒・炭素材料・物理数学モデルの先生と協働し、東北大に異動後に論文を発表しており、このような取り組みを継続していく所存です。

とりとめのない文章となりましたが、化学教室の教育と研究に、私なりのやり方で貢献していきたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。